

## この夏を騒がせた男たち

文 伊藤公一

text by Kouichi Ito

記録的な酷暑に加え、豪雨、台風、地震と予期せぬ天災に見舞われた日本列島。かくも暑苦しかった2カ月間のなか、爽やかなニュースの代表選手は、秋田県公立高校の大健闘が称えられた第100回記念甲子園であろう。

一方、この夏、それらの若者に対抗したかのように突然登場し、「夏枯れ」を吹っ飛ばしてくれた78歳男児が二人いる。

まずはスポーツ界の権力者。なぜに、その存在が問題となり話題になったか。その転機も忘れてしまったが…。

「わしは歴史に生まれた歴史の中の男や」「男・山根」など、様々な迷言を残しつつ、自ら反社会勢力との付き合いまでを自発的に暴露し、約束された終身職の退任を余儀なくされたアマチュアボクシングのドン、山根明前会長。

もう一人の78歳男児。山口県内で、祖父宅より一人で離れ、山中で行方不明となった2歳男児を、僅か20分で発見し、日本中に一陣の涼風を吹かせた尾畠春夫氏。

ボランティアの「神様」として、既に有名な人であったとも聞くが、その崇高な精神と行動力、能力の高さには、ひたすら脱帽する。

羽織袴や白いスーツが決まっている山根氏。飾らないアウトドアウェアが、お似合いの尾畠氏。

平均寿命と健康寿命の乖離が問題視されている現在、まさに対極にも見える御兩人だが、自動車運転免許返納が勧められている後期高齢者年齢で、颯爽とハンドルを握る姿に、全く衰えを感じさせないのは凄い。

さらには入学試験不正が問題視されている東京医科大学の最高権力者・白井元理事長も78歳。やはり、いかなる業種においても、この年齢で認められる仕事人でこそ、カリスマやドンの称号が得られるのであろう。

そして志半ばで怪死を遂げ、夏が過ぎ去った現在も、その死因が明らかとならない「紀州のドンファン」は、享年77歳。

いかなる人も長く生きれば、尊敬さ

れたり軽蔑されたり、労わられたり鬱陶しがられたりするのであるが、とにかく元気で長生きはしたいものだ。

## Profile

1958年生まれ。伊藤病院3代目院長。北里大学医学部卒業、東京女子医科大学大学院修了。医師になって以来、国内外にて一貫してバセドウ病、橋本病、甲状腺癌など甲状腺疾患に対する診療と研究にひたすら従事。東京女子医大、筑波大大学院非常勤講師。日本医科大学、了徳寺大学客員教授。日本内分泌外科学会、日本甲状腺外科学会理事。厚生労働省診断群分類調査研究班班長。伊藤病院 <http://www.ito-hospital.jp/> 名古屋甲状腺診療所（名古屋分院） <http://www.kojin-kai.jp/nagoya/> さっぽろ甲状腺診療所（札幌分院） <http://www.kojin-kai.jp/sapporo/>

